

「豊堤」便り



第5号

平成17年8月号

発行 五ヶ瀬川の豊堤を守る会

編集 西本師子

住所 延岡市北町1-14

電話 0982-32-2226

FAX-0982-32-2229

紙芝居「豊でまちを守ったおはなし」
大人から子どもまで申し込み殺到

昔懐かしい紙芝居。前回にも紹介した「豊でまちを守ったおはなし」が、意外なほどの人気です。舞台（枠）本体に蝶番で模型をとりつけた日本モデルだ一つしかないユニークな紙芝居ですが、それが上演の申し込みに多く反響に嬉しい悲鳴をあげています。

新聞に掲載され、全国ネットに載ったおかげで、全国メジャーになったようです。取材も東京、大阪から記者さんがきています。特に印象に残った箇所を紹介します。

港小学校

自由学習の一環として取り入れてくださいました。六月十三日。会場は、同学校の図書館。全校生徒が二三人。複式授業だそうです。校長先生、教頭先生をはじめ先生方全員が一緒に見ていただきました。

同校の裏は昨年の台風の土砂崩れの傷跡がなまなましく残っていました。

学校の位置は、延岡の北東で東海漁港近くにあり、昔、海の玄関口として栄え、江戸、明治には千石舟が行き交い、漁村も大変な賑わいだったそうです。その名残を留めるのは学校の正門です。千石舟をつないだ石の筋（もやい）が使用されており、説明文が書いてありました。

台風と豊堤の紙芝居が終わって、昔の港の話や川の話をしたところ、誰もが興味深そうに聞いていました。授業の感想は「豊が役に立つので驚いた」

「家に帰ったら、豊堤のはなしを教えてあげたい」。普段の授業とは一味違った学習となりました。

一木一草

さざれ石。細石と書く。「君が代は千代に八千代にさざされ石の巖となりて昔のむすまで」の「君が代」でおなじみだが歌詞が頭の中にすり込まれている割に実物がどんなものか知られていない。

古代からの気の遠くなるような時間をかけて小石を巻き込み岩となった奇岩のことで、小石が動かぬ大きな巖となつた姿をなぞり、国のいく末までの繁栄といやさかを称える意味が含まれている。

そのさざれ石が日向の海岸にある大御（おおみ）神社で発見された。潮風を受けながら静かに佇む神社は「にぎのみこと」など、古代の天皇の名が掲げられている。波風にさらされながらも風化されることのないさざれ石。

時を越えて私たちには計り知れない深いいわれがありそう。もう一箇所、北浦町に「さざれ石の島」がある。引き潮の時、高島の海岸に表わされるそう。神秘的でさわやかな話題に、世の混迷も「小さく、ちいさく」見えてきた。

西本記

防災・減災フォーラム2005 in 宮崎

前座を務めた紙芝居

去る7月28日、宮崎日日新聞、全国地方新聞社連合会主催、国土交通省、宮崎県等後援の「防災・減災フォーラム」が宮崎市の市民文化ホールで開催され、約260人が会場を埋めました。

プログラムは、自然災害の記録(ビデオ)、紙芝居「昼でまちを守るたおはなし」、水害に対する取り組み(ビデオ)とつづき、メインのパネルデスカッション(杉尾哲宮大教授、小澤浩一高鍋町長、木佐貫ひとみラジオオパールナリテ)、藤原要国土省宮崎河川国道事務所長、コーデネイター勝部一之宮崎日日編集局長)が行なわれました。わたしたちが向かわなくてはならない「向こう三軒両隣」の助け合いの心。そうした主旨を踏まえたホールラムでした。

会場には、関係者や一般の応募で参加した人でぎっしり。スクリーンに絵を映写しながら演じました。西本の語り行い、見学のみなさんにつくり見ていただきました。タイムリーな内容だったこともあって、好評でした。

ロータリクラブや南方地区市政懇談会
8月4日、延岡中央ロータリー例会で紙芝居と昼堤の話を取り混ぜて卓話を行いました。約60人の参加がありました。
また、同月12日には、南方地区の市政懇談会の後、行なわれた防災推進委員の話の前に紙芝居を行ないました。

紙芝居申し込みについて
区単位、学校、防災関係、個人単位での申し込みを受け付けています。
希望者は、五ヶ瀬川の豊堤を守る会で貸与規定が出来ていきますので申し出ください。
語り部は、今のところ西本が致します。
◆連絡 通省延岡河川国道事務所
0982(31)1155
◆五ヶ瀬川の豊堤を守る会
0982(32)2226
西本

主な紙芝居日記

- 17年(2005)
- 5, 8 五ヶ瀬川の豊堤を守る会総会で初演
- 6,10 トライアートカレッジ
- 6,13 港小学校
- 7,21 山下児童館
- 7,13 南方理事会
- 7,19 延岡商工会議所オリエンテーション
- 7,28 『防災・減災フォーラム』(宮崎日など主催 会場宮崎市)
- 8,4 延岡中央ロータリークラブ
- 8,4 延岡ふるさとをつくる会
- 8,5 宮崎百人委員会(宮崎市)
- 8,12 南方地区市政懇話会



山下児童館の子供たち



トライアートカレッジで

寛永十三年間の洪水記念碑

当時の惨事ものがたる大出水の碑

延岡市大貫町の菊池重文さん（95）の家の庭には、庭木に隠れるように先がとがった自然石があります。石には文字が彫りこんであり、なにやら由緒がありそうな佇まい。それもそのはず、寛永13年（1636）に立てられたものと記されています。



「寛永一三年丙子八月一日。大水位、此地上八尺余出」風雨に摩滅し、かすれかけた文字をたどっていくと、今から約四百年前の水害の

歴史が刻まれています。彫りこんだ字の解説は平成8年発行の「石の思い出」を参考にしました。

「同一五年戊寅九月当所牛退右末為覚」と読め、あとは判読が困難です。

寛永は、有馬直純の治世。八尺は約三メートル。その地がそれだけ水没し、被害が大きかったため、碑が建てられたのと想像できます。

大貫町の菊池さんの家に伺ったところ、お元気で当時を鮮明に覚えていらつしやいました。

総合すると昔、大貫町の、ガンガン石の近くの蔵尻（くらしり）という所に菊池さん所有の田畑があり、記念の石は畑の中に建っていたそうです。そのあたりは、その頃、土がねぼつてやわらかくい湿地帯。粘土質で、畑や田にクワを入れるとなかなか取れない。耕しに来た人たち、記念碑にクワをガンガン打ちつけて、ドロを落としていくので、石は削れて、今のような上が逆三角の形になってしまったそ

うです。

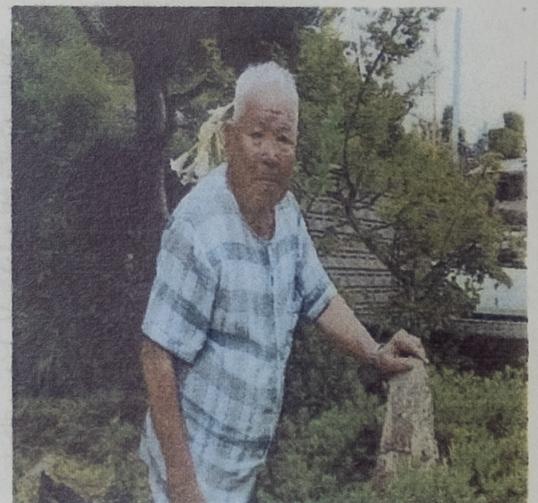
菊池さんは「このままでは、石が砕けてしまう」と心配して重い石をリヤカーに乗せて自宅へ運んだ。三十数年前の話です。

名前が刻んでいないので、造った人の名前はわかりませんが、よほどの被害が出たものと推定されます。現在、家の前庭の植え込みの中にあり、彫り込んだ文字がますますわからなくなっているものの、「大水の記念碑」として大切に守られています。

保存のために、菊池さんが移さなければ、貴重な碑は消えて無くなっていたでしょう。



菊池さんが運んだ寛永年間の自然石の記念碑



大水記念碑を眺める菊池重文さん

近況お知らせ

専門誌「建築ジャーナル」の記者、中村文美さんが大阪から取材にやってきました。豊堤とまちづくりという視点から聞いていきました。（17、7、17）

日本経済新聞の神谷浩司記者が『文化欄』に「豊堤」を取り上げたいと東京から取材に来ました。（17、8、21）

豊堤にまつわる 思い出特集

豊堤のセメントのルーツ

延岡出身で、現在、病院長（川崎市）の甲斐裕文氏から貴重な手紙をいただきました。文の一部を紹介します。

「大昔のことを豊堤につられて思い出しました。おぼろげですが」と、当時の思い出とともに船倉の地図が添えられていました。その中で、特に興味を引いたのは「豊堤」のセメントを造っていたところ、とある部分。

五ヶ瀬橋南詰、東がわ、現在の延岡消防署のあたり。かなり民家や病院などが立てこんでいます。

ちなみに大瀬橋南から東へ材木屋、隣りが甲斐氏の実家の甲斐幹文家、その隣りが料理・貸し席となつています。さらに川へ通じる細道をはさんで置屋があります。

この界限には、他に三原旅館、床屋、タバコ屋が点在しており、今の町の様子とは違い、いろいろな店や会社、病院

がならんでいたようです。

五ヶ瀬川堤防の上には豊堤があり、セメントを創った家は、その側に位置しています。

地図説明の中に堤防から階段を下りて川へ出る出口は、増水時、木材をはめ込んで浸水を防ぐ方式とあります。今も残っていませんか？の問いかけに、編集者が調べたところ木材をはめ込むための鉄の枠が残っていました。錆びていますが、これも洪水の歴史の証人です。

お待たせしました「この指止まれ」
ワンナイト居酒屋『豊亭』に集おう

ジャジャーン！

「この指止まれ」事業計画の一環としてワンナイト居酒屋『豊亭』を開店します。

主な内容は次の通り。
期日 平成十七年九月二二日
時間 午後六時半
会場 北町河川敷（本家ささき下）

会費 3000円

会員の皆様へ

「空飛ぶ豊」第5号をお届けいたします。年会費2000円、未納の方は、同封の振込み用紙をご利用ください。お返事が無い場合は、連絡して取りに伺います。よろしくお願ひします。

ご入会いただきながら、年会費のこちらの請求が遅れている方へ。大変遅くなりました。こちらの手続きが遅くなっています。入金方法を同封します。入金方法などは連絡します。

五ヶ瀬川の豊堤を守る会

追ってハガキで連絡します。会員以外の方も、お誘い合わせの上ご参加ください。蚊対策や、照明など、企画委員が頭をひねっています。『豊亭』らしい、趣向を凝らしてお待ちしています。

居酒屋「豊亭」は、河川敷の夜空の下。そこでがやがやわいわい『郷土に温な風』を吹かせましょう。郷土色豊かな、食材を使ったお料理。地元産の酒やビールをたっぷりご用意いたします。

